

年間第15主日の説教

金 大烈 神父 2009年7月12日(日)

《キリストの弟子として守るべき三つの原則》

おはようございます。暑くなりますので説教が長くないようにしたいと思います。簡単に今日の福音で強調されている幾つかの言葉だけ伝えたいです。

今日の福音(マルコ6・7-13)を読んでみますと、宣教をするにも原則があるみたいです。その原則を話す前に皆様に聞きたいことがあります。皆様は神様の息子であり娘であるのは認めていますよね。そしてイエス様の弟子であることも認めますか? (「はい」) そうです。私たちは皆イエス様の弟子です。従って、弟子たちなら守らなければならないことについて考えてみましょう。今日の福音を通してイエス様は宣教に対しての三つの原則を仰っているのではないかと思います。それはカトリック信者である、そして弟子である私たちが耳にしなければならないことだと思います。

1番目の原則。イエス様は弟子たちを宣教に遣わされるとき、何人を一組にして遣わされましたか? 二人ずつですね。二人といえば最小の共同体を意味します。たくさんの人で作られている共同体なら会いたくない人は見なければいいんです。しかし、二人きりの共同体ではしょうがなく、相手が気に入っても気に入らなくても仲良くしなければなりません。イエス様は仲の良い者を一組にして「行きなさい。」とは言わなかったのです。気に入った人が自分にあたるかわかりません。ただイエス様は「あなた方二人はあそこへ行きなさい。」と言われたのです。一番小さい共同体、二人きりの共同体として派遣された場合いろいろ問題が起きます。気に入った人と組みになって動くのなら何という喜びでしょう。でもあまり好きではない、あまり気が合わない、それどころか嫌いな者と同じ組になって行かされたら大変なことです。何を述べ伝えるかということさえ忘れるほど憎しみで満たされてしまいます。しかしイエス様は二人ずつ行ってほしいと言われました。相手がどの人になるか構わず、自分が相手に合わせる方法しかない。私たちの共同体の精神は自分と組んだその人に自分が合わせながら正しい目的を歩むことです。これが共同体のひとつの精神であり宣教者の基本的な姿勢だと思います。

2番目の原則、今日イエス様はものすごく厳しくおっしゃいます。「旅に杖1本の他何も持たず、パンも袋も帯の中に金も持たず、ただ履物だけ履くように。下着は二枚着てはならない。」皆様このような生き方ができます? 物乞いの人より悪い状態です。このような生き方なら誰でも無理な要求だと言うかも知れません。しかし、この言葉を額面どおり理解しようとするよりその言葉に隠れている意味を弁(わきま)えなければなりません。この言葉に隠れているイエス様のみ旨は何でしょうか。数えたことはないのですが、自分も持っている下着は30枚以上でしょう。車もあります。お金もあります。さあ隠れている意味は何でしょう? この言葉に隠れているのは神様に対して信頼すること「あなたたちが私を信じるなら心配することはない。下着1枚でも行けるのが信仰だ」これが隠されたメッセージです。私たちはいろいろ足りないところがあるでしょう。物もお金もたくさん持っていたいでしょう。でもそれはできません。足りなくても神様に対して信頼感があれば乗り越えられます。弟子である皆様が福音を伝えるとき、難しいことにぶつかったとき、神様が一番大きいバックグラウンドです。「何を恐れることがあるか。」このような気持ちでして欲しいということです。

3番目の原則は、私たちが良い心で良いことを伝えようとしても、受け止める者もいるが必ず反対する者もいることを覚悟しなさいということです。いつも甘い歓迎だけを受けようとするれば、述べ伝えることは無理です。若し私、金サベリオ神父が100%の司牧をしたとしましょう。そうすれば、皆が誉めるとお思いますか? いいえ、ありえないことです。何かと文句を言う人、拒む人が必ず現れます。しかし、何もしないで追い出されるだろう、門前払いされるだろうと思っただけはいけません。まず行って

やってみる事です。やってみて受け入れてくれたら感謝です。希望が生じます。受け入れてくれなかったらそれは神様に任せて下さい。何もしなくて「できません」と言ってはいけないことを胸に刻みましょう。あきらめずに行って神様のみ言葉を伝えること。これが3番目の原則のメッセージではないかと思います。

3原則は、

- 1・二人の共同体から始まる私たちの共同体の精神はお互いに合わせる事。
- 2・何があっても神様が派遣して下さったのだから、神様が私のことを助けて下さるという信頼を持つ事。
- 3・何をやっても受け入れる者もいるが受け入れない者もいることを覚悟してやってみる事。
このことを考えてみましょう。

ありがとうございました。